

講演と朗読 「エリーザ・ビアジーニ——わたしの詩の作法について」(総合文化研究所主催

二〇一五年十一月二〇日)

報告 和田忠彦

イタリア文化会館大阪の招聘により来日した詩人エリーザ・ビアジーニ(Elisa Biagini)による講演と詩の朗読会を、立命館大学土肥秀行氏ならびに本学リサーチフェロー石田聖子氏の協力を得て主催した。イタリア語と英語で創作をつづけ、ジェンダーと身体性をめぐる作品の多い詩人から、その詩作品生成にまつわる自己分析を体験をまじえつつ語ってもらったのち、最新詩集『裂け目より *Da una crepa*』を中心に、自作の朗読をお願いした。聴衆は三十人ほどと多くはなかったが、そのほとんどがイタリア語を解するという条件も手伝って、きわめてなごやかなうちに会は進行した。ちなみに当日の内容については、本誌次号に全文を掲載する予定のため、ここでは略歴のみ記すに留める。

一九七〇年フィレンツェ生まれ。現在もなお居住するフィレンツェと、かつてアルダ・メリーニについての論文で博士号を取得したアメリカを主な活動場所とする。伊語と英語を行き来しながら創作と翻訳をなす。その詩からは、ジェンダーや身体性にまつわるテーマが色濃く浮かび上がる。エイナウディ社の詩歌叢集「白本」より、これまで三冊の詩集を発表した。順に、『訪問者 *L'ospite*』(二〇〇四)、『森の中 *Nel Bosco*』(二〇〇七)、『裂け目より *Da una crepa*』(二〇一四)。ダイアナ・ソーほか訳『森

の訪問者 *The Guest in the Wood*』は二〇一四年度米国最優秀翻訳書賞(詩部門)を受賞。日本で編まれた『脱原発・自然エネ ルギー218人詩集』(二〇一二)に、環境をテーマとし、特に「風力」にこだわった次の英詩が収められている。

walls and leaves / sucking rays, / spitting suns / into soups: / our veins, / glowing like neons.

総合文化研究所主催 朗読会講演会
エリーザ・ビアジーニ「わたしの詩の作法」
Sul mio fare poesia
Elisa Biagini
walls and leaves sucking rays, spitting suns into soups: our veins, glowing like neons
日時: 2015年11月20日(金)
15:00-16:30
場所: 総合文化研究所講堂 422 教室
言語: イタリア語 (通訳あり)

『裂け目より』(白本)より。現在もなお居住するフィレンツェと、かつてアルダ・メリーニについての論文で博士号を取得したアメリカを主な活動場所とする。伊語と英語を行き来しながら創作と翻訳をなす。その詩からは、ジェンダーや身体性にまつわるテーマが色濃く浮かび上がる。エイナウディ社の詩歌叢集「白本」より、これまで三冊の詩集を発表した。順に、『訪問者』(2004)、『森の中』(2007)、『裂け目より』(2014)。ダイアナ・ソーほか訳『森の訪問者』(2012)に、環境をテーマとし、特に「風力」にこだわった次の詩が収められている。